まちづくりネットワーク岸和田議事録

- 日　時：平成 21 年６月 24 日（水）　18:30～20:30
- 場　所：市立公民館３階講座室
- 参加者：３２名（進行：池阪　記録：東山）
- ゲスト：上田博久氏（「古座川アドベンチャー倶楽部」主宰、ｶﾇｰｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ）
- テーマ：「故郷に暮らす喜びと誇りを次世代に」

上田　博久（うえだ　ひろひさ）　さん

本州最南端から太平洋に注ぐ清流、古座川。川底の石が透ける清冽な水、水中を走る魚の影、川面に遊ぶトビやカワセミ、優しい瀬音…。その古座川流域を中心に、豊かな自然環境を舞台にカヌーやトレッキング、エコツアーなど、さまざまなアクティビティを案内する『古座川アドベンチャー倶楽部』を主宰されています。古座川の暮らしともっと深く関わり、守り、魅力を伝えたい！そんな想いに突き動かされ５年前に始めたこの倶楽部では、子どもたちに川遊びや山歩きを教えるなど、エコツアーや体験型観光の企画・運営を行っています。

古座川を舞台にしたテレビや CM 撮影のコーディネートもこなしながら、いろんなカタチで故郷の素顔を発信し続けている上田さんですが、都会に憧れ一度町を出たことがあります。

―夢が見えなくなった 35 歳の年、上田さんを救ってくれたものは…―

- 講演概要

《まちネットと私》

・4 月のまちネットに参加して、それがご縁で今日お話させていただくことになりました。

【上田さん】

《古座川町のこと》

・「古座川　魅力まっぷ　知図帳」は和歌山大学、役場、住民が集まって作りました。
（資料として参加者に配布）

・田舎が貴重と知って誇りを持つようになってからは、古座川の紹介として「信号もコンビニもない」「“秘境１００選”にも選ばれた田舎」と説明しています。

・場所は和歌山県串本の先、古座川の本流には「七川ダム」があるが、支流の小川にはダムがないので、水が非常に美しい。

・古座川町の面積は 294.52km^2、森林面積９６％で、急峻な山間に川が流れ、流域に人が住んでいます。
農地は 0.5%、宅地は 0.3%。

・2008 年 6 月の人口は 3409 人、2009 年 6 月の人口は 3349 人、1 年で 70 人いなくなりました。
高齢化率は 45%、年間 60.8 人死亡（6 日に 1 人）、年間 14.03 人出生（26 日に 1 人）、60－14＝46 人
70－46＝24 人となりますが、この 24 人は町から出て行った人です。

・町から出る人は、高校を卒業して出てゆく人、Ｉターンの人（仕事や地域の人とのコミュニケーションが上手く行かなかったことなどが理由とされる）などがいます。

《故郷を出て、それから…》

・盆、正月は町の人口が 3 倍位になります。帰ってくる人は都会の話をし、それを聞いて外でえらくなるのが良いと感じていました。町や村に残っている青年たちがさみしく思え、自分は故郷を出ました。故郷に生きる喜びや誇りがもてなかったからです。

・ところが、息子がロート胸という病になったので、故郷に帰ることになりました。仕事はあるが、自分の心の居場所が見つかりませんでした。

・そんな頃、月尾嘉男（つきお　よしお）東大名誉教授、全国自然塾塾長に出会いました。九州をはじめ、一緒に全国の僻地を旅しながら、月尾先生の塾から学び、古座川の良さを自分のなかで見出しはじめることができました。

・その後、月尾先生と一緒に『「環境と情報をテーマ」に「喜びと誇りを」次世代に』と古座川渓流塾をつくることになりました。

《故郷のすばらしさ》

・古座川の素晴らしいところは本州最南端の清流なので、美しくて泳げて水遊びができることです。支流「小川」にはダムがなく海までカヌーで行けます。町に信号やコンビニが無く、北海道大学の研究林があります。

【たくさんの人が来られました】

・北海道大学の研究林は育林に適さない場所もあり、比較的多くの自然林が残っています。モノレールを使うことで、オーバーユースを制し、トレッキングやエコツアーを実施しています。焚き火の体験や、ヒノキ（30ｃｍの長さの間伐材）に打ち込みした茸菌の持ち帰りなどをおこなっています。

・古座街道（司馬遼太郎の「街道をゆく」の中でどこに行きたいかの 1 位になったと朝日新聞に掲載）には、築 200 年の廻船問屋があり、古座川河口の中州で北前舟が創られました。第五福竜丸も古座で作られました。

・うなぎもおいしい（笑）そして、「ひがし」と「古座川」があります。

・古座川町には一枚岩、虫喰岩、潜水橋（沈下橋）、小川の風景と水、七川ダムの桜、橋杭岩、滝、北海道大学の研究林（放置林）や建物があり、また、桜、藤、さつきが川辺の風景として彩を添えています。

【カヌー教室の様子】

《古座川をとおして伝えたいこと》

・「環境と情報」情報とは：魅力、物語。同じように見えている情報でも場所や地域が変われば必ずどこか違うはず。もう一度、見直してみました。今までとは違う伝え方はないだろうか？……

・「南紀熊野体験博」（1999 年 4 月 29 日～9 月 19 日の 144 日間。南紀熊野の 16 市町村を会場に、オープンエリアで行われた博覧会）を機に、古座川で体験型観光としてカヌー教室＆ツアーを始めることにしました。

・レジャーとして楽しんでもらうことも大切だが、カヌーを通して伝えたいことを明確に持つことが大切です。
カヌーは移動する手段だが、いい旅をするには川を知り（危険なところを伝え、川を見る）、トレーニングをすることが必要です。川面からの低い位置で、川や岸辺の風景を見る。場所の違いによる、生き物（手長えび、もくず蟹、うなぎなど）を見て、生物の多様性を知る。また、捕った手長えびを川原でてんぷらや味噌汁などに調理をし、おいしさを味わい、川から命をいただいたと実感する。

【古座川の自然】

・小学生用、中学生用の高さの違う飛び込み岩があります。子どもは、自分自身で心固め（自分の決断を大切にする）をして飛び込みます。
・海中公園と提携していて、バックヤード（飼育の様子）の見学やえさやりを体験できます。シュノーケリングで海に潜って、テーブル珊瑚などを見せています。
・体験した子供達の勉強の動機付けになったり、危険を避けることを身に付けたり、「心固め」をしてもらっています
—小さいうちに、水や風のにおい、など五感で自然を体験していただければと思っています—

《岸和田へメッセージ》
・古座川と岸和田の違い
古座川：誰がみても素晴らしい自然がある。
しかし、地域の人は意外に気付いていない。その素晴らしさに感動した都会の人が地域を活用している。
岸和田：説明を受けないと良さの分からない歴史資産がある。地域の人がスポットを当て、愛するように自己啓発した。
地域の人が故郷の「宝」を活用している。

・　明治初期に外国人から見た日本を紹介した「逝きし世の面影」という本を読んだが、外国人から見た日本という視点について、ブラッド･トウルを紹介します。
⇒彼は 1999 年から 3 年間、旧本宮町でＡＬＴとして勤務。2005 年から半年間、愛･地球博カナダ館ホスティングスタッフを経験。現在、田辺市在住「外国人から見た外国人のための観光情報」の整理作業をしました。将来は電子媒体や紙媒体で露出していく予定をしています。太鼓を通じて熊野を知った彼の紹介で、熊野や高野山に外国人観光客が増えました。
・地域を考えるとき—
誰が何にどのように光を当てるか？自分の住んでいる場所の「宝」は何か？誇れる、愛せる「宝」は何か？
それは、いつまでも誇れる「宝」であり続けられるか？壊れていないか？過去の幻になっていないか？
自分ではわからないけど、よそ者には光る「宝」もあります。それを探すと意外に何ということのないもの

が光り輝くことがあります。
日常ｖｓ非日常ｖｓ異日常なのです―

● 参加者の感想

古座の名前が面白い。由来は？限界集落について聞きたい。日本人自身が田舎を見直している。／一度行きたい。／きれいなところだと感動した。／7 月に行く予定。カヌーはどこで借りられるか？／行きたいが、72 歳の高齢グループにどのような受け入れがあるのか？／大きな魚がつれるところには大きな自然があるとわかった。釣りをする夫について古座に行きたい。／宿泊場所はあるのか？／小さい頃川で遊んだ。今も自然や川のにおいを感じる。子どもを連れて行きたい。／美しいところ。川で泳いで、飛び込んでみたい。／市民活動の仲間作りに今日の話を生かした。／すばらしい自然だと思った。／春に行ってカヌーをした。／古座って面白い。／何度も行きたくなる。ますます好きになる。／小さい時川や池で遊んだ。危険を知ることは大切。手長えびが食べたい。／河川改修について、川辺からのあり方を知りたい。／和歌山市の塾生。古座川を楽しんで欲しい。／オニシ先生が古座川に小屋を建てた。5 月に亡くなられたので行った。カヌーもうなぎも体験した。すばらしい。知らないと味わえない、知らないと行けないので、発信して欲しい。／今年は行く。広報を見てきた方がいて良かった。／丹波篠山生まれ。うなぎの穴釣り、蛇で遊んだ。人口減少、悩みは同じ、行きたい。／自然に親しみたい。／カヌーをした。飲んでいない上田さんの話をはじめて聞いた。離れてわかる、故郷の良さ。うなぎを食べたい。／えびを取って食べる。命をいただくとわかる。行きたい。／車で行ってきたが、最寄り駅はどこか？（古座駅か串本駅）／すばらしい景色に感動。／以前田辺に勤務、イチイガシの会で年 1 回田辺に行くが、古座にも行きたい。

⇒今回は、５名の方が広報をみて来ていらっしゃいました。

感想の後、上田さんに質問に関してお話しいただきました。

【参加者のギモンにもお答え】

・古座の由来は、河口付近の川内（こうち）で船祭りにあります。神が座っているから「古（神）座」と言われています。
・限界集落の再生について、平井地区で「人の交流」に関する取組みがあります。受け入れ準備の練習をしながら、Ｉターンの方には定住政策として、空家住宅の斡旋をしています。
・宿泊施設はあるので、宿泊できます。
・受け入れるフィールドは要望に応じて、相談しながら用意しています。
・河川改修については、場合によって人工物は危険です。水の流れには命があるように思えます。違和感のない景観を考えて欲しいです
・源氏蛍と姫蛍が、古座では同時に見られるところがあります。

● 記録者感想

上田さんは、お仕事柄、よく日焼けした顔で、まじめに物静かに古座川町の話をたっぷり聞かせてくださいました。参加者はそれぞれに古座川に思いをはせ、行ってみたい、行ったことのある方もまた行こうと思われたと感じました。（記録　東山）